

重点取組分野	令和 4 年度		総括	重点取組分野	令和 5 年度		総括	重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①主体的な学びを展開できる問題解決的な学習により、言語感覚や思考力・判断力・表現力を育成します。②めあてを意識した「わかる授業」を展開するために、学習環境を整え、学習の進め方を工夫し、学習のスタンダードを共通理解し、実践します。	①重点研究を通して、問題解決的な学習を進めてきた。話し合い活動において、思考力・判断力・表現力が高まってきた。 ②単元を見通した学習活動を展開した。単元目標やそれぞれの時間のめあてを意識した授業を目指した。	B	確かな学力	①重点研究を通して問題解決的な学習を進め、話し合い活動等において、思考力・判断力・表現力を高めました。 ②単元を見通した学習活動を展開し、単元目標やそれぞれの時間のめあてを意識した授業を目指しました。			確かな学力	c1		
豊かな心	①道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間、人権教育、縦割り活動を中心に、礼儀を大切にしている態度、相手を思いやる心、社会性や自己有用感を伸ばし、好ましい人間関係を育てます。 ②豊かな心情を育み、いじめのない人間関係を築けるようにします。	好ましい人間関係など豊かな心を育む支援はある一定の評価はできる 専任を中心とした児童・保護者対応、毎月の運営委員会での児童理解・いじめ防止対策委員会などで早期対応を図っている。 横浜プログラムの活用を学校として進めていけるとよい。	B	豊かな心	①道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間、人権教育、縦割り活動を中心に、礼儀を大切にしている態度、相手を思いやる心、社会性や自己有用感を伸ばし、好ましい人間関係を育てます。 ②豊かな心情を育み、いじめのない人間関係を築けるようにします。横浜プログラムの全クラス実施により、学級の実態把握に力を注いでいきます。			豊かな心	c2		
健やかな体	①一校一実践運動の「なわとび」と学校保健委員会を通して、体力と健康意識の向上を目指します。 ②体育・保健指導・食教育を中心に、家庭との連携を図りながら心と体の健康を守ることに関心をもち、望ましい生活習慣を身に付け、進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てます。	①実践運動を盛り上げるため、委員会活動と連携しながら、体力と健康意識の向上を目指した活動を行った。全校児童に周知することができ、運動に親しみ、自己の健康の意識を高めようとする姿が見られた。 ②カリキュラムに位置付けられ、体育・保健・食教育を行っているが、児童の生活に即し、主体的な教育活動にまでは至っておらず、家庭との連携もまだしっかりと図られていない。	B	健やかな体	①児童の運動や健康に対する意識を高め、体力健康意識の向上のため、一校一実践運動で「なわとび」に取り組んだり、学校保健委員会を開いたりする。 ②心と体の健康を守り、望ましい生活習慣を身に付けられるようにするために、家庭や外部機関と連携を図った体育・保健・食教育を実践する。			健やかな体	c3		
地域連携 学校運営協議会	①地域の人的・物的資源を活用した児童の学習活動や学校支援活動の推進に取り組み、社会教育との連携や学校施設の有効利用など地域との協働を図ります。 ②学校運営協議会の効果的で円滑な運営に取り組み、地域や保護者に向けて情報を公開します。	①重点研究で行った生活・総合的な学習の時間で地域の人的・物的資源を活用した児童の学習活動の推進に取り組んだ。近隣校が郷土資料館を見学に来るなど地域との協働を図ることができた。 ②学校運営協議会で話し合ったことをホームページや学校だよりなどで地域や保護者に向けて情報を公開することができた。	B	地域連携 学校運営協議会	①地域の人的・物的資源を活用した児童の学習活動がさらに推進できるように近隣校と情報を共有し連携を図り進めていく。また、学校支援活動の推進の取り組みとして、社会教育との連携や学校施設の有効利用など地域との協働を図ります。 ②学校運営協議会での話し合いの発信、学校HP、学校説明会などを通して、地域や保護者に向けて情報を公開し、開かれた学校づくりを進めていく。			地域連携 学校運営協議会	c4		
いじめへの対応	①いじめを早期発見し組織的な対応を図ると共に、未然防止の取組を保護者地域に発信し、連携・協力を図ります。 ②心理・行為・行動の背景にある児童の人間関係を捉える力を高める教職員研修を行います。	生活アンケートやいじめアンケートを定期的(年間3回)に実施することで教師の気づき、児童からの訴えを見逃さないように職員で共有しながらすすめることができた。職員研修を重ねることで、教師が気付くアンテナを増やしたり、対応について話し合ったりしながら対応力をつけていきたい。	B	いじめへの対応	①いじめを早期発見し組織的な対応を図ると共に、未然防止の取組を保護者地域に発信し、連携・協力を図ります。 ②心理・行為・行動の背景にある児童の人間関係を捉える力を高める教職員研修(横浜プログラム全クラス実施)を行います。			いじめへの対応	c5		
人材育成 組織運営(働き方)	①三部会(学習指導部・児童指導部・連携環境安全部)、教務会、運営委員会、ブロック研、学年研を適宜開きながら、組織同士が連携して全体を見通して学校運営できるようにします。 ②メンターチーム「ぐみ研」を組織し活動する。経験の浅い教職員の不安や疑問をミドルリーダーが集約する形で、学校全体で若手の育成に努めます。	①教務会を中心に組織的に学校運営を進めた。ただ今後は、重点研と児童指導推進チームにGIGA推進チームを取り入れた、3つの推進チームを立ち上げ、誰もが組織の一員として学校運営に関わっていくように体制を整えていく。 ②メンターチームへの関わりを多くの職員が増えていくよう10年次以上の教員がファシリテーターとなり人材育成を強めていく	B	人材育成 組織運営(働き方)	①三部会(学習指導部・児童指導部・連携環境安全部)、だけでなく新たに3つの推進委員会を創設し、職員全体で組織を支え全体を見通した学校運営できるように取り組んでいく。 ②メンターチーム「ぐみ研」を中心に、経験の浅い教職員の不安や疑問をミドルリーダーがファシリテーターとなり学校全体で若手の育成に努めていく。			人材育成 組織運営(働き方)	c6		
教育課程・学習指導	①家庭学習、朝学習、授業内の反復練習・スキル学習等の実践により基礎基本の定着を図ります。 ②生活科・総合的な学習の時間の研究に取り組み、主体的に取り組む子の育成を目指します。	①家庭学習、朝学習、授業内の反復練習・スキル学習等の実践により、基礎基本の定着を図った。さらなる基礎学力の向上を目指す必要がある。 ②生活科・総合的な学習の時間の研究に取り組み、主体的に学びを進める姿勢が少しずつ身に付いてきた。	B	教育課程・学習指導	①家庭学習、朝学習、授業内の反復練習・スキル学習等の実践により基礎基本の定着を図ります。 ②国語の重点研究に取り組み、話し合い活動等を通して思考力・判断力・表現力の育成を目指し、主体的に取り組む子の育成を目指します。			教育課程・学習指導	c7		
児童生徒指導	①「別所の子」によって指導の統一化を図り、また、家庭との連携で公共心や規範意識を育てます。 ②生活アンケートを実施し、いじめや学校生活の課題点を早期発見し、組織的対応を図るとともに、人権週間などの取組を通じ、いじめや課題への未然防止につながる心や態度を育てます。	学校のルールを職員間で共有し、指導の一本化が図れるようにした。生活アンケートやいじめアンケートを定期的(年間3回)に実施することで教師の気づき、児童からの訴えを見逃さないように職員で共有しながらすすめることができた。	B	児童生徒指導	①「別所の子」によって指導の統一化を図り、また、家庭との連携で公共心や規範意識を育てます。 ②実施回数が増えた生活アンケートを実施し、いじめや学校生活の課題点を早期発見し、組織的対応を図るとともに、人権週間などの取組を通じ、いじめや家庭環境に関する情報を得ることで支援体制を充実させます。			児童生徒指導	c8		
特別支援教育	①保護者の願いを受け止め、個別的教育支援計画を作成して個別指導をしたり、個別級の児童と一般級との交流教育を進めたりします。 ②外部機関や保護者、地域と連携し、安全で安心な居場所のある学校づくりを行います。	児童理解を図るために個別の指導計画を各担任が作成し、その変化や効果を時に保護者と話し合うことで児童の心身の成長を支えた。今年度は、職員不足で取り出しなどの特別支援教育があまりできなかった。	B	特別支援教育	①個別的教育支援計画を作成し、必要な児童に対し低学年の担任を中心に取り出し学習をすることで、学習に対する苦手意識を軽減させます。 ②外部機関や保護者、地域と連携し、安全で安心な居場所のある学校づくりを行います。			特別支援教育	c9		
a15	a25			a15	b10			a15	c10		
ブロック内 評価後の 気づき	横浜市学力・学習状況調査のデータをもとに「自己肯定感と学びのつながり」についてともに考えることができた。また、特別支援の視点をもった小中共通スタンダードの作成を進め、9年間を通して一貫した支援につなげている。小中合同授業研究会を中心に学力の向上に取り組んだ。ICTの効果的な活用の視点ももち、今後も授業改善に努めていく。小学生の中学校訪問において、授業や部活動の見学を中心に、中学校を知ることで不安解消や期待感の醸成を図った。不登校等の改善へのつなげていきたい。			ブロック内 評価後の 気づき				ブロック内 評価後の 気づき			
学校関係者 評価	・別所小学校の子どもたちは、素直で大人しい子が多く、挨拶をしてもなかなか反応がない時もあるので、地域ぐるみで挨拶を広めていく必要がある。 ・運動会が全校で実施できて本当に良かったと思う。コロナ禍で体験できなかったことや制限されていたことが少しずつ緩和され、コロナ前のように、色々な学校行事が実施できるようになるとよいと思う。 ・掃除時間に、1年生の教室に6年生が来て掃除を教えてくれるシステムがとても良いと思う。 ・登校の意義について、様々な意見はあるが、今後も継続して交通安全を意識しながら登校できるとよい。			学校関係者 評価				学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り	・時間や環境に様々な制限のある中、学習や生活の場面でできる限りの可能性を模索して、児童への指導・支援の準備や環境を整える努力をした。今年度は重点研究を中心に問題解決的な学習を進めてきた。話し合い活動において、思考力・判断力・表現力が高まってきた。今後はGIGA端末の活用により力を入れ、学力向上や学習意欲が高まるように努めていきたい。 ・支援を要する児童が増加する中、児童支援専任を中心に個に合った支援ができるようにチームを立ち上げたり校内支援委員会や個別の指導計画で支援の具体化を図っていった。また、いじめへの対応や未然防止を図るため運営委員会などで情報を共有し、一人ひとりを大切にしている場所のある学校づくりの実現をすすめることができた。 ・教職員の指導・支援力の向上や若手教員の人材育成に対して、ある一定の成果はあるものの改善する余地が残った。来年度は、人材育成に力を入れ育てていきたい。			中期取組 目標 振り返り				中期取組 目標 振り返り			